

めいか

令和3年9月30日
文京区立明化幼稚園

「明化オリンピック」で感動を

副園長 池田 克子

さわやかな秋風が吹き、心地よい季節となりました。年少組は、ピロティーでかけっこをしたり、三輪車や滑り台をしたりなど、身体を動かす楽しさを感じています。小学校校舎横の草むらからは、「リーン、リーン」と虫の涼しげな声。その声に導かれ年中組は手作りの虫取り網をもって、毎日バッタやチョウを捕まえています。「見て～。バッタ捕まえたよ」と嬉しそうに見せてくれます。図鑑を見て「あ、このバッタかな？」とバッタの種類を調べたり、大きさや色を観察したりして気付いたことを話しています。年長組は、「ゴールボール」や「ポッチャ」の競技を遊びに取り入れて楽しんでいます。「ゴールボール」の試合をした後に、表彰台に登り、メダルをもらい、そしてカメラマンの撮影やインタビューにも答えます。この夏のオリンピックやパラリンピックの刺激を受け、競技だけではなく見たことをすべて再現しながら友達と一緒に遊ぶことを楽しむ子どもたちの発想に感心しました。

さて、先日、体育館で年長組がリレーをしていた時、勝ちたい思いからA児がコーナーカットして走ってしまう姿がありました。担任がA児にコーナーカットした場所まで戻って走ることを伝えると、A児は泣き出し、走ることをやめてしまいました。その間、相手チームは次々とバトンをつなぎ、ゴール。このまま、バトンをつなぐことができずに試合を放棄することになってしまうのではと思った時、A児は気持ちを立て直し、バトンを持って走り出しました。本当に嬉しい瞬間でした。そして、A児からバトンもらったB児も、その後のC児もD児も、全速力で走りバトンをつないでいきました。勝敗は決まっていたにもかかわらず、誰ひとり投げ出さずに最後までカー一杯走る姿に感動し、私の心はジーンと温かくなりました。リレーは、自分一人の競技ではなく、みんなで心をつなぐバトンも心もつないでいくことが大切です。勝負には負けてしまいましたが、子どもたちの中に勝敗よりも大切な仲間とのつながりがさらに深まったのではないのでしょうか。今年は、例年の運動会を開催することは難しいため、年長組が考えてくれた「明化オリンピック」というネーミングで行います。身体を動かすことの楽しさはもちろんですが、喜びや悔しさなどの様々な感情の体験も大切にしていきます。「明化オリンピック」を通して、楽しかった満足感ややり遂げた達成感を味わってほしいと思います。お子さんの成長を感じていただける「明化オリンピック」となりますよう、温かいまなざしと拍手での応援のご協力をお願いいたします。



三輪車楽しいね（年少組）



バッタ見つけたよ（年中組）



体育館でリレー（年長組）